

アンナプルナ・サーキット&アンナプルナBC紀行(その2)

(承前: ジャーナル第41号)

深澤 裕

◎期間 2014年9月30日(火)~10月21日(火)(22日間)

◎メンバー 深澤 裕 (単独) ガイド1名

4、トロンパス(5416m)から聖地ムクチナート(3760m)風の谷・ジョムソン(2713m)を越え、タトパニ(1189m)まで。

トロンパスからの下りはガイドが言うとおりに風が強くなり、埃に巻き込まれました。12時には4200mのロッジに着きました。振り返るとトロンピーク(6144m)が眺められます。ここは地図にはRodge open in seasonsと書かれていました。ロッジは3軒ありました。一軒に入るとドイツ人の4人組のトレッカーと一緒にになりました。歯を磨いて、手を洗い、早速ダルバートを頂きます。8時間ぶりの食事です。ダルバートはどこで頂いても外れがなかったです。今回のトレッキングでは食事がどこでも美味しく満足しました。感謝です。昔、インドのラダックを旅したときチャンという地酒を呑み、酷い下痢に遭ったことがありました。旅で下痢を我慢する辛さは二度と御免です。あの時の教訓が今回生きています。なま水や沢の水は絶対に飲まない。酒は蒸留酒にする。この教訓で何とかやって行けそうです。

ジョングという村がここから河の向こうに眺められます。蕎麦畑や小麦畑が見えます。それ以外は砂漠地帯です。水のあるところだけが緑です。オール・オア・ナッシングの世界です。河の向こうはムスタン地方なので観光客は立ち寄ることはできないそうです。ムスタン地方は未だに80才くらいの王様が統治しているそうです。特別なパミッションがないと入れないそうです。ネパールの中でもまだこんな地域があるのに驚きました。河の手前に沿って歩き続けると、聖地ムクチナートに15時頃到着しました。白い塀に囲まれた中に寺がいくつかある聖地です。やっと11時間のトレッキングの一日が終わりました。

ここはヒンズー教とチベット仏教の聖地だそうです。何故聖地なのか。チリンさんの説明によるとこの地には「聖なる泉」と「聖なる火」があるからだそうなのです。村の入り口にある門には確かにヒンズーの神様と仏教の神様が祀ってあります。違和感が全くありません。門の中央の台の上に大きな黒っぽい岩が置かれていました。何と、直径40cmくらいのアンモナイトでした。標高4000m近いこの辺りは太古、海の底だったのです。お供えとして置かれています。この砂漠の聖地に。黒い巨大なアンモナイトが何とも不思議に輝いていました。



(ムクティナートに入る門、中央にアンモナイトのお供え)

ゲストハウス(以下GHと略)に荷物を置き、徒歩30分ほど歩き、聖地を参拝します。ここにはヒンズーの寺と仏教寺院が混在していました。チベット仏教寺院に入り、暗い観音菩薩の下のほうを見ると石の間から青白い炎がいくつか出ています。この「聖なる火」は天然ガスでしょうか。昔の人は驚いたのでしょうか。もう一つ「聖なる水」です。

巡礼者が108の蛇口からほとぼしる聖水の下を駆け足でまわり、沐浴していました。巡礼者は殆どがインド人でした。彼らはジョムソンやムクチナートのGHに泊まり、そこから団体にバスを使って聖地に来ます。ムクチナートからはインド人を乗せたタクシーバイクが何台も聖地に向けて走っていました。

今から110年ほど前に河口慧海がこの地を訪れたとき「ムクテナートとは首の蔵め所^{おき}という意味。すなわちマハーデーバの首を蔵めた処である」といって、今インド教では名高い霊跡とし、インド教徒も仏教徒も共に霊跡として尊崇している」「この聖火も太古、噴火山があったのでこのような現象が起きているのではないか。馬鹿げた話だ。」(チベット旅行記)と書いています。しかし巡礼者にとっては聖地ですから、皆さん必死でお参りしていました。ここはもう一つの聖地・チベットのカイラス山と並び、一生に一度の巡礼地なのです。

ここのGHはタカリ族が経営しているので夕食のダルバートが美味でした。ここのチキンカレーは肉がしっかりと歯応えがあり、骨までしゃぶってしまいました。ネパールに来てから、ベジタブルな生活をしていたので余計に肉を味わいました。タカリ族の料理は定評があり。タカリレストランはカトマンズでも流行っていました。ここでは麦で作ったロキシー(焼酎)を頂きました。稗(ひえ)で作ったロキシーよりも麦のほうが度数も強く、コクがありました。

翌日。南のジョムソンに向かいます。このカリガンダギ谷は世界一広く、幅が30kmあるそうです。東側がアンナブルナ山塊。北側がアッパームスタンのドルパ地方、西側がダウラギリ山塊です。トクチェピーク(6920m)を右に眺めながら広い河原を歩きます。この道はチベットからムスタン地方を通過してジョムソン・ポカラへとつながる道です。



(風の谷、カリガンダギ。アッパームスタン方面を眺める)

昔から岩塩を運ぶ交易路として栄えてきた道です。

このあたりの河原にはアンモナイトが落ちているのでチリンさんとアンモナイト拾いをやりました。黒っぽい粘板岩を拾いそれを割る。すると中にアンモナイトが入っているのです。もちろん入っていない石もあります。トレッキング中なので小さくて軽いのを選び1時間ほどで2個見つけました。午後になるとジョムソン方面から凄まじい風が吹き荒れます。体中が砂だらけです。コンタクトレンズをはずし、マスクをし、完全装備で歩きます。「赤ちゃんのこぶし位の小石が飛んでくるから気をつけて」とチリンさんは言いますが嘘では無さそうです。エクレ・バティー(1軒の茶屋)という所で休憩しました。昔は一軒だったようですが、今は3軒あります。中で10歳くらいの男の子がTVを見ていました。TVで「忍者はっとりくん」をやっていたので驚きました。日本のアニメはこんなところでもやっているのです。話しかけたら笑っていました。

ジョムソンには飛行場があり、この辺りでは一番大きな街です。高校もありました。ここのGHでは40人のインド人の巡礼者と同宿でした。皆さん興奮し、大声で話をしていました。お金持ちの方が多く、年輩の女性は豪華なサリーを着ています。聞くと、ニューデリーからカトマンズ、そしてポ

カラを經由し、ジョムソンまで飛行機でやってきたそうです。明日はチャーターバスで聖地ムクチナートに向かうそうです。飛行機でまたインドに帰るそうです。3泊4日。インド人の巡礼者は金をかけています。

このホテルの前で村の女性たちがリンゴやドライアプリコットやアップルブランデー(200ルピー)を売っていました。この付近はリンゴ栽培が盛んで30年ほど前から日本人が支援したと聞きました。

翌日、チリンさんと相談し、タトパニまでローカルバスで行くことにしました。ムクチナートに行くインド人巡礼者のバスが道を多く通り、そのため強い風で埃が舞い、トレッキングが楽しめないのです。

トレッキング開始から11日振りに、タトパニの温泉で埃まみれの体とシャツ・パンツを洗濯し、温泉でゆっくりと休養することにしました。ランドリーで洗濯物をきれいさっぱりにしました。ここの露天風呂は100ルピーです。ビールとポップコーンセットが400ルピー。多くのトレッカーで賑わっていました。ジョムソンから1600m下がただけでチベットの荒々しい風景が消え、緑が多く暖かい風景になりました。虫も増えました。ニルギリサウス(6839m)が谷の間に立派に眺められました。この日は友人に葉書を書きました。

5、ゴレパニ(2853m)の暴風雨。プーンヒル(3190m)の朝焼け。マチャプチャレBC(3710m)アンナプルナBC4130m)の大展望。そしてヒンズー教の祭、ティハール。

ゴレパニはタトパニから1700mほど高いので気合を入れて歩きます。カリガンダギ谷のジョムソンがチベットの砂漠だったので、ここの緑がまぶしいです。田が広がり、出発したベシサハールの景色を懐かしく思い出しました。途中でバナナ売りの女の子がいたので一本20ルピーで買いました。ねっとりとした甘い味が忘れられません。ネパールは標高差で植生が大きく変わります。

13日。15時30分にゴレパニのGHに到着しました。夕食を頂いている途中から激しい雨になりました。この雨は暴風雨でトタン屋根を激しく打ちつけ、GHの壁がはがれるのではないかと思うくらい凄まじかったです。

14日。激しい雨は降り止みません。停滞します。「3000mでの雨だと、4000m以上は雪になっているはず。なので、アンナプルナBCに行く道は雪崩の危険がある。もし雪崩の危険があるときは引き返す」とチリンさんは言います。私も雪崩の危険をおかしてまでアンナプルナBCに行く気持ちはありません。同意しました。

15日。早朝5時。やっと雨が上がりました。ヘッドランプをつけて、空身でプーンヒルに登ります。この丘は展望が良いと聞いていました。5時45分に頂上着。薄暗く、ガスが出ていてほとんど何も見えません。しかし太陽が昇り始めるとダウラギリ(8172m)の頂上に朝日が当たり、輝き始めます。そして霧が晴れ始めました。すると今までに見たことのない大展望が広がりました。西側に高く聳えるダウラギリ右隣にトクチェピーク(6920m)。広いカリガンダギ谷をはさんでニルギリサウス(6830m)そして北の方向に立派なアンナプルナサウス(7219m)が屹立しています。その右側に聖峰マチャプチャレ(6997m)が聳えています。これらの展望が一気に来たのです。驚きました。1分前までガスのベールに包まれて何も見えなかった空気のカーテンが広げられました。これらの山々は昨日降った新雪で真っ白でした。バッテリーで甘いお茶を買い、ゆっくりと朝焼けを楽しみました。

ゴレパニからタダパニを越え、シヌワに向かいます。このコースは熱帯雨林に似た植生です。苔むした樹林が続きます。屋久島の森を歩いている気分です。驚いたのが石楠花(ラリグラス)の巨木です。



(朝日に輝くダウラギリ、プーンヒルから)

⇒ (プーンヒルからのダウラギリ、トクチェピーク、ニルギリサウス)



抱えられないような太い石楠花の巨木の森が続いているのです。花は4月頃に咲くそうですが、下からは見えないが上から眺めると花が咲き誇り、凄いそうです。花が地面に落ちると道が花の絨毯になるそうです。

ここで UK の2人の女子と友達になりました。彼女たちは3ヶ月間ネパールをトレッキングし、これからミャンマー、クアラルンプールを経て帰国するそうです。このあいだ話をしたカナダ人は1年間旅を続けていました。旅行のレベルが日本人と随分違うと思いました。

この日、カトマンズから情報がありました。予想した通り14日は4000m以上ではブリザードだったそうです。トロンパス辺りで31人のトレッカーが雪崩などで亡くなり、150人が閉じ込められたそうです。トロンパスはクローズされたそうです。アンナプルナBCに行く途中の道の雪崩は大丈夫だろうか心配になりました。

シヌワからマチャブチャレBCへの道は快適でした。モディーコーラ谷をトレッキングします。この谷は深く、左にアンナプルナサウスが迫り、右にマチャブチャレが聳えてきます。この谷はヨセミテのようで迫力があります。大きな滝がいくつも現れ、爽快です。竹林や樹木がうっそうとしています。心配していた雪もほとんど無く、下りてくるトレッカーに聞くとアンナプルナBCには40cmくらいの雪があるが雪崩の心配はないとのことでした。安心しました。

17日。16時30分にマチャブチャレBCに到着。ここはマチャブチャレ・アンナプルナサウス・ガンガプルナに囲まれています。凄い展望です。ここから山を眺めるには首を上げないといけません。首が疲れました。ここのGHでは個室が取れなかったのでドミトリーになりました。同室の若者たちはコロンビア人とカナダ人です。6つのベッドを3人でシェアしました。彼らは早々とベッドに入ってしまったが、私は身体が冷えたので食堂でラムのお湯割りをいただきます。ヤクのチーズがあったのでつまみます。体が温まります。

18日。4時にヘッドランプをつけ、マチャブチャレBCを出発します。ここの積雪は10cm程です。雪がだんだん多くなりました。アイゼンは持参しましたが付けていません。3人のヘッドランプが前の方でチカチカ光っています。8時アンナプルナBCに着きました。朝日は西にそびえるアンナプルナサウスを照らし輝いています。360°の展望です。すさまじい展望に時間を忘れていました。

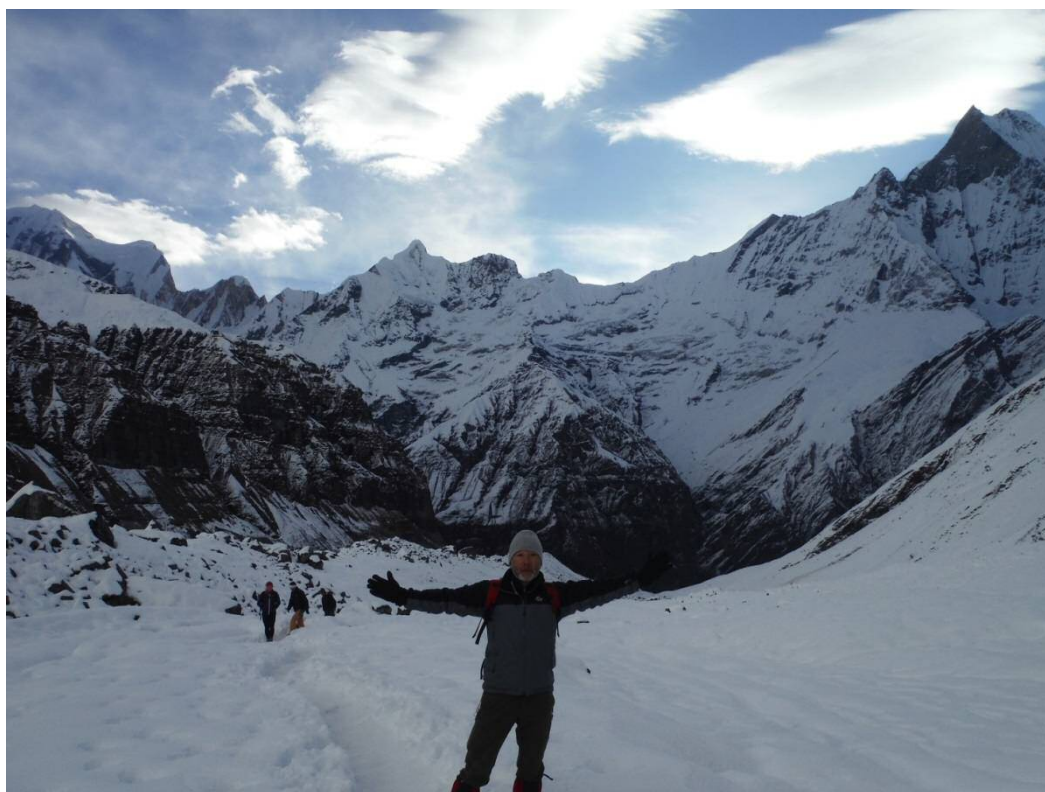
チリンさんが甘い珈琲を持ってきてくれました。テラスで珈琲をすすりながらアンナプルナの内院の凄まじい展望に感動していました。至福の時間でした。積雪は40cmくらいでアイスバーンもひどくありませんでした。東側に聖峰マチャプチャレやガンダルワ・チュリを眺めながら、感動を引きずったままマチャプチャレBCに戻ります。4時間ほどのアンナプルナBCトレッキングを終え下山します。今日はここからバンブーまで一気に1400m下ります。



(アンナプルナBCにて)



(朝日に輝くアンナプルナサウス)



(アンナプルナの内院の凄まじい展望。右端：聖峰マチャプチャレ、中央：ガンダルワ・チュリ)

下る途中に、バラハー寺という小さなゴンパがありました。この寺の向かい側には大きな滝があり、マチャプチャレの氷が溶け流れ出たところにある寺です。いかにも聖地というロケーションでした。

「この寺から先は水牛の肉を持ち込んではいけないことになっている。しかし、6年ほど前に韓国隊がこのきまりを守らず持ち込んだ。やはりアンナプルナ登頂に失敗。更にリーダーの金さんは事故で亡くなった。」とチリンさんは言っていました。この神様は男で、女の神はペワ湖にあるバラヒ寺院だそうです。この神様は夫婦の神様だそうです。面白い寺でした。信仰が現実を規定する。チリンさんに強い信仰心があるからこそ、生きていけるという自負を感じました。

20日。ジヌー（1780m）に泊まります。ここは温泉で有名です。私たちが泊まったのは「ニュー・ホットスプリングGH」でした。早速20分ほど歩いて川底まで行きます。緑に包まれ、マイナスイオンに溢れる辺りに浴槽が四角く切ってあります。10人程のガイドやトレッカーが入浴しています。ここはタトパニほど混んでいません。ここまでは車やバイクが入って来れないので、俗化していません。手を伸ばすと川を流れる冷たい水が気持ちよいです。周りの自然が圧倒的に深いです。源泉に神様が祀ってあります。日本の温泉でも源泉に神様が祀ってありますが似ています。あと2日で何とかトレッキングが無事に終了できるかなと、少し感傷的になります。露天風呂から上がり30分かけてGHまで戻ります。このトレッキングで初めてのビールを頂き、チリンさんと乾杯しました。ネパール・アイスという銘柄でした。味はアメリカのブルシットビアー（失礼）に似て、旨くありませんでしたが、喉の乾きは治まりました。私にはロキシーの方が合っています。

ジヌーからダンプスそしてフェディーを越え、ポカラまでもう少しです。29年目のポカラはどうなっているのか楽しみです。

最終日に近づくとまたヒンズー教の祭、ティハールが始まっていました。この国は本当に毎日が祭だらけです。この日は、からすの日。翌日が犬の日。翌々日が牛の日。最終日が兄弟の日となって、いろいろな生き物を祀っています。学校も休み。ダサインの祭から数えると約1ヶ月のあいだ休みになります。花の首飾りをかけた犬も散歩しています。この日は村中の子どもたちが、道端で踊りを躍り、賑やかに唄をうたい、道を歩く人たちからお賽銭をもらえる日なのです。私も村を通過するたびに、子どもたちの唄と踊りに遭遇しました。花の首飾りをかけてもらい、お賽銭をあげて通らせてもらいます。この国の人たちはお祭りに生きて、お祭りに死ぬ。一年中お祭りです。いつ仕事するの、という感じですが全く気にしていません。凄い国です。

21日。9時。フェディーに到着。ここからタクシーで旅行者の楽園・ポカラのGHに向かいます。ここのGHでチリンさんとはお別れです。アンナプルナサーキット&アンナプルナBCのトレッキングを無事に終えることができました。彼には本当にお世話になりました。明日から、カラパタールに行き、2週間のエベレストのトレッキングガイドの仕事をするそうなので、午後にはカトマンズに戻るそうです。「ガイドの仕事は6ヶ月で一年分を稼がなくてはいけないのでたいへんだ」と彼は言っていました。感謝の気持ちを込めてチップを渡します。再会を願って解散しました。



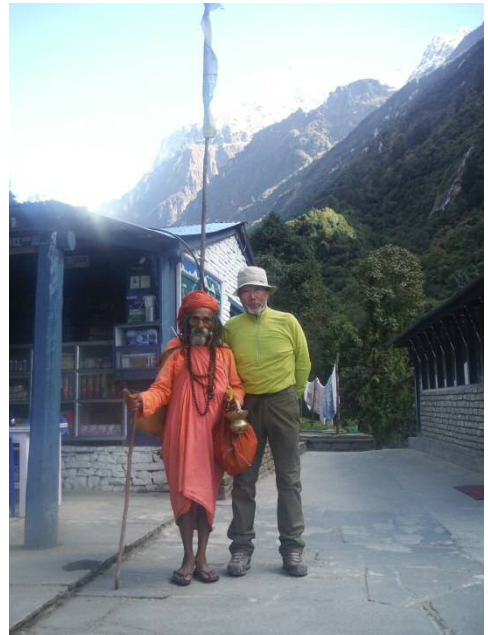
（ティハールの祭。子供たちに首飾りを掛けて貰う）

6、おわりに

今回の22日間のトレッキングを振り返ると、凄い体験をさせていただいたと思います。トレッキングの楽しさもそうですが、このコースは、そこに暮らす人たちの生活とトレッキングコースが密着していたように思います。特にダサインの祭から始まり、ティハールの祭で終わるというヒンズー教の祭を通し、住民の生活をフルで楽しませてもらったことは有り難いです。生贄の儀式など、驚きの連続でした。ヒンズー教だけではなくチベットン仏教に対する信仰の深さも感じました。聖地ムクチナートで巡礼者との体験などは、ここでしか味わえない楽しみでした。また、素晴らしい自然にも触れました。フェディーでは桜が咲いていました。この後訪れたポカラの南方のバルパ県のドリマラという村では蛍が飛んでいました。畑には菜の花が咲いていました。日本には一年に四季がありますが、ネパールでは一日に四季がありました。

トレッキングというのは山歩きですが、アンナプルナサーキットは山や自然だけではなく人々の暮らしや生活を見聞き、宗教的文化などを楽しませてもらえる素晴らしいコースだと思いました。10月14日の暴風雨には驚きましたが、命が助かったので、これからの人生をまた楽しんで生きたいと思います。お世話になった方々に改めて感謝します。

(2015年1月11日 記)



(サドゥー [修行僧] と一緒に)



(聖峰 マチャプチャレ)